

第6回 番組審議会議事録概要

1. ◆開催日時

平成28年10月3日(月) 正午より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 杉浦克昭、藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、林香里(所要のため文書で参加)

株式会社サテライト・サービス

清水賢治、岡崎洋三、窪田正利、五百城重典、平野雄大、関克哉

株式会社フジテレビジョン

福本洋、門澤清太、永竹里早、鹿内植、宋ハナ、影矢隼壮

株式会社ジュピターテレコム

平本善一、徳山 真知子

ディスカバリー・ジャパン株式会社

道井隆之、松本ちえこ

4. 議題

1) 「いいすぽ!」#5 ストリートファイターV

フジテレビ ONE スポーツ・バラエティで放送

2) 「THE NAKED」～ガイアナ 苦難の湿地帯～

ディスカバリーチャンネルで放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

「いいすぽ!」#5 ストリートファイターV について

- ・ゲームというのをやったことがない。こういう2時間半の番組があることにびっくりした。プロのゲーマがいることさえ知らなかった。
- ・昔のプロレスを見ているような楽しみ方はできた。見ている人にはわかっているの省いているのかと思うが、ルールについて説明があると楽しめるなと思った。
- ・こういった e-Sports というカテゴリーがあるということに驚いた。
- ・コメントが面白くない。今の技は大変なんですよとか、マニアックな話を入れてもいい。

- ・CSではイギリスでやっているダーツの競技会という番組がある。つまらないかと思ったら意外と面白い。酒飲みがいるなど色々なキャラがいる。
- ・e-Sportsというスポーツという言葉を使うのであれば、2020年の五輪に向けて何かエキシビションのようなものをやったら盛り上がるのではと思った。
- ・ものすごくおもしろかった、K-1のような観点で見ればいいというのはわかった。ただ、得意技のマニアックな解説とかが少ない。コントローラーの握り方とか。この人の得意技は左手がものすごく動く「左手の魔術師」なんだとか、過去の映像を上手く使いながら、〇〇技とか勝手に命名しても良いのでそれをした方がいい。また終わった後、勝者のみにインタビューをしているが、負けた方にしっかりインタビューするなど焦点を当てるべき。
- ・ゲームで戦っている人たちに「どういう日常があって」「対戦相手にどういう因縁があるのか」とかストーリー、バックグラウンドがあるとちょっと面白く観られる。
- ・Jリーグの配信権でパフォームの話が出ましたが、CEOの話によりますと、今はタブレットなどの端末が増え、日本はその環境がかなり整備されており、しかもスポーツに関心が高いということで成立したと言っていた。
- ・初心者ターゲットにするのであれば、ゲームに関して説明が足りなかった。キャラクターの性質、どんな技があって、どういうときに効果的なのかという理解ができなかった。この番組を放送するのはなぜなのか。競技人口が多いのでトーナメントというイベントをそのまま番組にすれば、安く制作し比較的多くの視聴者が集まるかもしれないという期待があるからなのか。放送の「公共性」や「基幹放送の役割」などといったこととは関係ないような気がする。
- ・大きく言うと二つに分かれた印象（もったいない or 分からない）。
- ・番組として不親切であるという印象。誰が何をしているかが分からない。ドラマ的に見せる部分が足りないと感じた。
- ・ファンは見れば分かるが、もう少しルール説明等、丁寧であっていいかなという印象。これは今後伸びていき、テレビでやることに大きな意味がある番組だろうと思う。演出の部分でも多くの意見が出たが、そういった改善点を直していけば、CSだけではなく広がっていく非常に良いコンテンツになると思う。

制作サイドからは

- ・この番組はスポーツだと思ってやっています。スポーツは人がやっているから面白い。
- ・出演者のバックグラウンドを見せるようにしています。実際に一人一人に取材している。出演者はシャイな人が多いですが、自宅を撮影するなど意識して作っています。
- ・ルール説明に時間をとると時間が長くなってしまいますので、せめぎ合いでやっています。
- ・ゲーム画面を見せるのかプレイヤーの顔を見せるのかというところもせめぎあいをしていくところです。この番組はまだ始まったばかりなので、これからどんどんブラッシュ

アップしていければと思っています。

- ・もっとマニアックに見せてもいいのではないかという意見は同感です。どこまで見せていいのか、どこまでわかりやすくしていいのか非常に悩むところではあります。出演者がみんなステレオタイプにならないように努力しています。
- ・海外で成立しているのはストリートファイターが今年 30 周年等の土台があります。あとは海外ではストラテジーゲーム（お互いの陣地を取り合うゲーム）が人気でメーカーがスポンサーになって大きい大会になって、賞金総額も 20 億円出たりします。日本はまだ法整備の問題で時間がかかると思います。
- ・テレビで放送する意味については、今後こういう世界が来るんだよという意味を込めてです。この e-Sports という世界があるということを知ってもらいたいという意図で、この番組を作っています。また新しい楽しみ方を増やして頂ければと考えています。

「THE NAKED」～ガイアナ 苦難の湿地帯～について

升本委員：

- ・サバイバルな環境に置かれることで暴かれる人間の本質という点をうたっているが、本当のドキドキ感が伝わってこなかった。エンターテインメント作品のなかでリアリティーを出すことの難しさを感じた。番組の制作上、できることは限られていると思うが、生の視聴者の声など聞かせて、字幕等でやれば切迫感があって面白いのでは。サバイバル生活自体が失敗して 10 日間で帰るような展開があると面白いのかなと思った。
- ・45 分という短い時間で 21 日間を描く難しさがあったのかなと思う。
- ・21 日間サバイバルという割には、予想通りだなという印象。虫を食べるなど思ったら食べるし、泥水飲むし、必然性と偶然性が感じられない。結局カメラは撮ってるじゃないかと思う。なぜ、今こういう番組を作って、人間の本質が裸であって、そこで生活するようになるという本質が見えないと感じた。
- ・なぜ 21 日間なのか、という定義づけが足りないのではないか。脱落が前提にないのが、台本感を加速している。例えば文明の利器の一つ残して（赤いボタンなど）、押したら助けが来るなど、そういう葛藤があってもよかったのかなと。
- ・私は 1 作目から見ている。実は失敗することの方が多くて、そっちの方が正直面白い。今回はかなり出来すぎている。簡単に意見を変え、衝突せず仲良くなることなんてまずなかった。リタイア状態にはスタッフが出てきます。近隣でも救急車が待機している。こっちの方がかなりおもしろい。これの本来のテーマは「無防備と恐れ」ということだと思う。
- ・今回は本当に痩せなかったなという印象。東洋系の人を出したらどうなるかというのもやってみたら面白いのではないか。
- ・常にカメラを意識しているし、カメラマンも照明もいる。だから作ってしまったのではないかという感じが残る。それが逆に途中で途切れれば、まじめに作っているねと、

もっと楽しめたのではないかと思う。

- ・出演者二人が人間的に結ばれていく過程とかあるのかと思ったら全然ない。見知らぬ男女2人の距離が縮まっていく描写もないし、食べ物に関してなんやかんや言っているけど全然痩せていかないし、喧嘩もない。こういうのをアメリカ人は好きなのかな、と試してみていた。裸である必要があったのか？という人間の本质とか葛藤とかが感じられないのが悔しかった。
- ・現代のテクノロジーの発達した社会では、家から一歩も出ないで、ずっとゲームをしている人たちがいる一方で、そういう社会の反動から、昆虫さえも食べて、サバイバルする「原始人」になりたい人たちも生まれるのかも。ゆえに、この出演者たちは、まさに、ゲームの画面に出てくる強い登場人物のようなもの。そういう点では「Naked」ではないと思った。
- ・日本の文化ではあまり発想しない番組だと感じた。カメラクルーはいるだろうし、大変なのは音の収録。裸だから音をとるのは大変だなと思いながら観ていた。

ディカバリー松本さん：

- ・途中退場はあります。今回、できるだけマイルドなものを持ってきてしまったのでリベンジしたい。
- ・詳細は契約の理由で話せませんが、個人との契約については個人の希望を尊重する形で行っています。
- ・番組は21日間かけて取っていると理解しています。
- ・この番組を放送し始めて、誰かが実際に僻地に言ってサバイバルする番組が増えた。このシリーズの後に無人島へ自分でカメラを持っていく番組もあるので是非見ていただきたい。

清水社長から

- ・聞いていて楽しい刺激的な議論でした。「いいすぽ」を番組でやる必要があるのかという意見、非常に貴重だと思います。番組審議会とは、放送は影響力が強いメディアなので、番組が適正であるのかどうかということに、厳しい第三者の目で見てもらう意味で設置しているもの。我々が間違えていけば直さなくてはいけないということを確認する会だと思っています。厳しい意見は我々のためにもぜひ言っていただければと思います。
- ・日本はテレビが過保護である印象があります。放送法というものが過剰に守っているくらいがある気がする。メディアは社会に対して多少過激であっても意見を言うということが必要であると思っています。日本の場合はそれが丸められている。そういう意味ではCSは本来持っているメディアの役割というものを出していかないといけないと感じています。

その他

- ・会社側からフジテレビ ONE /TWO /NEXT の概況について説明した。
2016 年度の上期を終えて、視聴率・収益とも順調に推移している。ヤクルト戦・西武戦、F1、それぞれのチャンネルのキラーコンテンツを使ってうまく視聴者を獲得していると思っています。
- ・番組審議会に取り上げて頂いた「いいすぽ」は早速、色々な会社からこういうことはできないかなど企画を持ちかけて頂いた。色々な可能性を秘めた企画であると感じています。こういう番組を視聴率や収益面という形で取り込んで行きたい。
- ・パフォームの「DAZN」やソフトバンクの「スポナビライブ」といったスポーツ系の配信が話題になっていますが、我々は放送のクオリティを武器に、「やっぱり放送で見るべきだな」と思われるクオリティのコンテンツをきちんと作っていきたいと思っています。

5. 報告事項

- ・次回は平成29年4月17日（月）を予定。
- ・議題はフジテレビ TWO とアニマルプラネットの番組の予定。